

＜特集＞第45回環境保全・公害防止研究発表会

第45回環境保全・公害防止研究発表会の概要

島根県保健環境科学研究所

平成30年11月15日（木）、16日（金）の両日に環境省、全国環境研協議会及び島根県の共催による第45回環境保全・公害防止研究発表会が松江市の島根県民会館で開催されました。

研究発表に関しては全国環境研協議会の会員から51題の演題応募があり、2会場に分かれて、大気（19題）、水環境（21題）、生物（4題）、廃棄物（5題）、放射線（2題）のセッションの研究発表が行われました。

1日目は主催者の挨拶、続いて特別講演及び研究発表が行われ、2日目は引き続き研究発表が行われました。2日間で会員及び行政機関等から延べ210名の参加があり、盛況のうちに終了しました。



（島根県保健環境科学研究所所長 柳 俊徳）

1. 開会あいさつ

島根県保健環境科学研究所所長の柳と申します。

本日は第45回環境保全・公害防止研究発表会、島根県松江市での開催をご案内しましたところ、このようにたくさんの方のご来場がありました。まずもって皆様のご出席に対しまして、お礼を申し上げます。

また、本研究発表会には、環境省様、全国環境研協議会様にも大変お世話になっております。重ねてのお礼を申し上げます。

ご存じのとおり、当県は自然に恵まれておりまして、すぐそばにはご承知の通り宍道湖がございます。私も毎朝湖岸を通ってきますが、今日も宍道湖、対岸まできれいにすることができました。

宍道湖の中には「嫁が島」という小さな島があり、その周囲にはシジミ漁の小舟が毎朝浮かんでおり、それを見ながら研究所の方に毎日出勤をしております。そういった恵まれた環境の中での開催ということになっており、研究会も含めまして、ぜひそちらの方もお立ち寄りを願いたいと思います。

それでは準備もできております。

これより第45回環境保全・公害防止研究発表会を開催いたします。よろしく願い申し上げます。



（A会場風景）



（B会場風景）

第45回環境保全・公害防止研究発表会日程表

平成30年 11月15日（木）	島根県民会館 A会場（3階大会議室）	
	○開会（13:30～13:45） 開会のあいさつ 島根県保健環境科学研究所長 柳 俊徳 主催者あいさつ 環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室長 上田 健二 全国環境研協議会会長 西森 郷子 島根県環境生活部長 松本 修吉	
	○特別講演（13:50～15:00） 演題：見えない公害から地域住民を守る 水環境を中心に 講師：山室 真澄（東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授） 座長：西森 郷子（全国環境研協議会会長）（高知県環境研究センター所長）	
	○研究発表	
	A会場（3階 大会議室）	B会場（3階303会議室）
	水環境Ⅰ（15:10～16:10） 生物（16:20～17:20）	大気Ⅰ（15:10～16:25） 水環境Ⅱ（16:35～17:20）
平成30年 11月16日（金）	○研究発表	
	廃棄物（9:20～10:35） 大気Ⅱ（10:45～12:00） 昼食・休憩	大気Ⅳ（9:20～10:20） 水環境Ⅲ（10:30～12:00） 昼食・休憩
	放射線（13:10～13:40） 大気Ⅲ（13:50～15:05）	水環境Ⅳ（13:10～14:10） 水環境Ⅴ（14:20～15:20）
	○閉会 A会場（15:30～15:45） 閉会のあいさつ 環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室長 上田 健二 次期開催県のあいさつ 三重県保健環境研究所長 松村 義晴 開催県閉会のあいさつ 島根県保健環境科学研究所長 柳 俊徳	

2. 主催者あいさつ
○環境省のあいさつ



（環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室長
上田 健二）

皆様こんにちは。高いところから失礼いたします。環境省環境研究技術室の上田でございます。

本日はお忙しいところ多数お集まりいただきましてありがとうございます。また、今年度主催の島根県におかれましては、お忙しいところ開催に向け奔走いただき誠にありがとうございます。

地環研の皆様におかれましては、各地域で直面する様

々な環境問題の解明、対策に正面から取り組んでおられます。環境問題は現場が重要でありまして、皆様の日々のご尽力にこの場を借りて感謝を申し上げます。

一方で、全国の地環研では、予算人員とも徐々に減少してきてしまっておりまして、この10年、20年で半減したという悲痛な声も聞かれます。

環境問題は日々変化しております。継続は大事でありますけれども、是非新たな課題に果敢に取り組んで、地域の環境研究機関としての真価を発揮していただきたいと考えております。

そうした新たな課題の一つとして、一点だけ申し上げます。気候変動への適応でございます。

今年も、激しい異常気象、あるいは災害が続きましたけれども、残念ながら今後はさらに悪化をしております。今や、適応問題は待たなしの状態であります。強靱な社会を作っていく上では、地域が主体となるのが極めて重要であります。なぜかといいますと、地域によって影響の出方も違いますし、社会的なプライオリティも違います。そうした知見の集積や対策の検討にあたっては、是非、地環研がコアとなっていただくことを私どもとしては強く期待をしております。

多くの皆様にとりまして専門外と思われるかもしれませんが、今日、明日の発表の課題を拝見しても、適応と書いてあるものは一つもなかったかと思えます。しかし、例えば大気も水質ももちろん生態系も気候変動の影響を受けます。ですから、得意な分野から入っていただき広げていただきたいと思います。

それから、国立環境研究所も今年の6月に成立しました適応法に基づきまして、国の適応情報基盤の中核を担うことになりましたので、皆様と連携し、皆様に適応に関してサポートさせていただく体制となっております。

いずれにしても、本日と明日の発表会が地環研の相互の研さんの場となり、地環研がさらに力をつけていただくことを期待しまして、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

○全国環境研協議会のあいさつ



(会長 高知県環境研究センター所長 西森 郷子)

ただいま御紹介いただきました、全国環境研協議会の会長を務めさせていただいております、高知県環境研究センターの西森でございます。第45回環境保全・公害防止研究発表会の開会にあたり、主催者として一言ご挨拶申し上げます。

本日は、全国各地から多数の皆様にご参加をいただき、誠にありがとうございます。また、環境省、国立環境研究所、並びに開催県であります島根県保健環境科学研究所、島根県環境生活部の皆様には、本研究発表会の開催に当たり、ひとかたならぬご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本年4月に策定されました第5次環境基本計画においては、分野横断的な6つの「重点戦略」と、環境リスク管理等の「重点戦略を支える環境政策」が定められております。大気、公共用水域等の汚染・汚濁を防止し、また、有害化学物質による環境の汚染を防止することにより、住民の健康と生活環境を守るための政策は、環境行政の出発点です。そして、私ども地方環境研究所には監視測定、調査研究などの業務で得られたデータや知見により、環境行政を科学的・技術的な側面から支える機

能が求められております。

近年、環境問題の多様化、複雑化、広域化が進んでおり、それぞれの地方環境研究所が機能の充実・強化を図り、業務を円滑に進めていくためには、内部努力に加え、環境省の支援、国立環境研究所との共同研究、地方環境研究所同士の連携や相互の情報交換がますます重要となってまいります。

今回の研究発表会では、5つの分野で合計51の研究発表が行われる予定です。いずれも、各機関や発表者の方々がそれぞれの地域における環境問題の解決に向け、日々取り組んで来られた研究の成果です。参加者の皆様におかれましては、この機会に互いの交流を深めるとともに、研究発表や各セッションにおける議論を業務の発展に活かしていただきますことをご期待申し上げます。

また、この後、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授の山室先生から「見えない公害から地域住民を守る～水環境を中心に～」と題した特別講演をいただく予定です。先生の長年の研究や取組に基づく、示唆に富むお話をいただけるものと思えます。

最後になりますが、この研究発表会が、本協議会の会員機関相互の連携と知識及び技術の向上につながりますことと、研究の成果が各地域の住民の健康の保護と生活環境の保全に貢献しますことを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。二日間に渡りますこの発表会、どうぞ最後までよろしく願いいたします。

○島根県のあいさつ



(島根県環境生活部長 松本 修吉)

島根県環境生活部長の松本と申します。

第45回環境保全・公害防止研究発表会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、環境省環境研究技術室の上田室長様をはじめ、全国各地からたくさんの方々はこの島根県へお越しいただき、開催県といたしまして心より感謝申し上げます。また、東京大学大学院の山室教授様には、この後、特別講演をお願いしておりますが、お忙しい中お引き受けいただきまして大変ありがとうございます。

近年の環境問題を考えますと、地球温暖化の進行や気

候変動の問題、PM2.5などに代表されます越境大気汚染の問題、マイクロプラスチック等を含む漂着・漂流ごみの問題など、多様化、複雑化しており、これらの課題を解決するためには、広域のかつ多様な主体との連携による協働した取り組みが必要となっております。そういった意味におきまして、こうした研究会は大変大切なものだと考えております。

本日から開催される発表会におきましては、大気汚染、水環境、化学物質、廃棄物、生物など様々な分野の研究発表が行われますが、活発な意見交換・情報交換により、皆様方の研究がより深まること、また、研究成果が今後の環境行政の施策に活かされ、環境問題の解決の一助となることを期待しております。

さて、折角の機会でございますので、島根県のPRをさせていただきますと思います。島根県は、東西に230kmと非常に長い県でございます、また北には隠岐諸島がございます。島根県には、隠岐ユネスコ世界ジオパーク、大山隠岐国立公園、ラムサール条約湿地に指定されている日本最大の汽水域である中海・宍道湖といったたいへん多くの自然がございます。

また歴史的には、世界遺産である「石見銀山」、この島根県民会館の窓から見ることが出来ます「国宝松江城」、皆様ご存じの縁結びの神様「出雲大社」などの歴史的な遺産も数多くあります。島根は、ご縁の国という風に言われておりまして、旧暦の10月は神在月といっております。旧暦の10月になりますと全国の神様が、島根、出雲の地にお越しになるということで、実は今年は11月17日(土)の夜から神様が来られて縁結びの会議をされるということを聞いております。こうした島根でございます。全国各地、遠くから皆様いらっしやっただいておりますので、せっかくの機会ですのでは是非お訪ねいただければと思います。

結びになります、全国環境研協議会の益々のご発展と、本日お集まりの皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、開催県を代表して挨拶とさせていただきます。2日間どうぞよろしく願いいたします。

3. 特別講演

東京大学大学院新領域創成科学研究科の山室真澄教授により、「見えない公害から地域住民を守る 水環境を中心に」と題して、特別講演が行われました。概要は特集として後に掲載しております。

4. 研究発表

51の演題について、A・B会場の2会場で、2日間にわたり研究発表が行われました。以下にその概要を示します。(1)第1日目

(島根県民会館A会場)

○水環境 I (15:10-16:10)

座長：青野 光子 (国立研究開発法人国立環境研究所)

1A1-1 奥只見湖における水質及びプランクトン類の調査結果について

松崎 彩実ほか (新潟県保健環境科学研究所)

1A1-2 養浜事業と琵琶湖沿岸の底質環境について

古田 世子ほか (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

1A1-3 季節別運転を行う下水処理場の放流水及び河川水に含まれる栄養塩類の動態調査

柏原 学ほか (福岡県保健環境研究所)

1A1-4 遊水地として活用される安平川湿原における水環境等の特徴

石川 靖ほか ((地独)北海道立総合研究機構 環境科学研究センター)

○生物 (16:20-17:20)

座長：古田 世子 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

1A2-1 森林劣化・衰退の監視と要因把握に向けた森林生態系における生物・環境モニタリング手法の確立

高橋 善幸ほか (国立研究開発法人国立環境研究所)

1A2-2 環境DNA技術を用いたカラスガイのモニタリング手法の検討

盛山 哲郎ほか (鳥取県衛生環境研究所)

1A2-3 野尻湖の水草帯の復元と保全に関する研究

大場 政哉 (長野県環境保全研究所)

1A2-4 榎野川河口干潟における「あさり姫プロジェクト」の実施について

上原 智加ほか (山口県環境保健センター)

(島根県民会館B会場)

○大気 I (15:10-16:25)

座長：熊谷 貴美代 (群馬県衛生環境研究所)

1B1-1 西日本で共同観測された黄砂の化学的変質と元素組成の特徴

辻 昭博ほか (京都府保健環境研究所)

1B1-2 PM_{2.5}用インパクトを付けた4段フィルターパック法による乾性沈着調査について

佐藤 詩乃ほか (新潟県保健環境科学研究所)

1B1-3 フィルターパック法による乾性沈着調査結果について -4段ろ紙法とPM2.5インパクトを用いた5段ろ紙法との比較-

中川 修平ほか (福岡県保健環境研究所)

1B1-4 PM_{2.5}中の化学物質の一斉分析について

佐藤 拓ほか (北九州市保健環境研究所)

1B1-5 果樹剪定枝の燃焼によるPM_{2.5}への影響

- 逸見 祐樹ほか(山形県環境科学研究センター)
- 水環境Ⅱ (16:35-17:20)
座長:池貝 隆宏(神奈川県環境科学センター)
- 1B2-1 河川水中のネオニコチノイド系農薬濃度に対する下水処理場放流水の影響
中村 玄ほか(堺市衛生研究所)
- 1B2-2 大阪市域の水環境中のダイオキシン類について
先山 孝則ほか(大阪市立環境科学研究センター)
- 1B2-3 名古屋市内で掘削されたボーリングコア試料中の自然由来有害重金属の分布とその起源推定
山守 英朋ほか(名古屋市環境科学調査センター)
- (2)第2日目
(島根県民会館A会場)
- 廃棄物 (9:20-10:35)
座長:成岡 朋弘(鳥取県衛生環境研究所)
- 2A1-1 レーダーチャートを用いた水質特性評価手法の安定型最終処分場への適用
古賀 智子ほか(福岡県保健環境研究所)
- 2A1-2 相模湾沿岸に漂着するマイクロプラスチック
池貝 隆宏ほか(神奈川県環境科学センター)
- 2A1-4 広島県内の一般廃棄物に関する調査・検討
藤井 敬洋(広島県立総合技術研究所保健環境センター)
- 2A1-4 廃瓦の再生材利用に向けた環境安全性評価
岡本 将揮ほか(鳥取県衛生環境研究所)
- 2A1-5 事業所における化学物質の取扱量の推定に関する検討 -大阪府を事例として-
田和 佑脩ほか((地独)大阪府立環境農林水産総合研究所)
- 大気Ⅱ (10:45-12:00)
座長:逸見 祐樹(山形県環境科学研究センター)
- 2A2-1 郊外と都市部における昼夜別PM_{2.5}と無機ガスの同時測定
梅田 真希ほか(群馬県衛生環境研究所)
- 2A2-2 PM_{2.5}に含まれるレボグルコサンの群馬県内分布と経年変化
熊谷 貴美代ほか(群馬県衛生環境研究所)
- 2A2-3 福井県におけるPM_{2.5}成分組成の地域特性について
岡 恭子ほか(福井県衛生環境研究センター)
- 2A2-4 島根県におけるPM_{2.5}の季節的汚染特性の経年変動について
金津 雅紀ほか(島根県保健環境科学研究所)
- 2A2-5 平成29年度における岡山県の微小粒子状物質(PM_{2.5})成分分析結果について
山田 克明ほか(岡山県環境保健センター)
- 放射線 (13:10-13:40)
座長:松尾 豊(島根県保健環境科学研究所)
- 2A3-1 低線量環境放射線の植物への影響の検出
青野 光子ほか(国立研究開発法人国立環境研究所)
- 2A3-2 福島県内における仮置場跡地での現地調査結果について
小磯 将広ほか(福島県環境創造センター)
- 大気Ⅲ (13:50-15:05)
座長:辻 昭博(京都府保健環境研究所)
- 2A4-1 千葉県における降水成分濃度調査 -清澄山の降水中硫酸イオン濃度と渓流水濃度の関係-
横山 新紀ほか(千葉県環境研究センター)
- 2A4-2 千葉市における湿性沈着成分の経年変化について
後藤 有紗(千葉市環境保健研究所)
- 2A4-3 全国から見た福井県の酸性雨の特徴とその要因
高岡 大ほか(福井県衛生環境研究センター)
- 2A4-4 京都府京丹後局における酸性雨測定結果
木崎 利ほか(京都府保健環境研究所)
- 2A4-5 和歌山県における酸性雨調査
上野 智子(和歌山県環境衛生研究センター)
- (島根県民会館B会場)
- 大気Ⅳ (9:20-10:20)
座長:佐藤 嵩拓(島根県保健環境科学研究所)
- 2B1-1 川崎市内の気温等推移に関する地域別特徴について
米屋 由理ほか(川崎市環境総合研究所)
- 2B1-2 大阪府域における大気中アンモニア濃度の広域調査
奥村 智憲ほか((地独)大阪府立環境農林水産総合研究所)
- 2B1-3 兵庫県における光化学オキシダントの新指標による解析について
久保 智子ほか((公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター)
- 2B1-4 沖縄県における一般環境の低周波音について
田崎 盛也(沖縄県衛生環境研究所)
- 水環境Ⅲ (10:30-12:00)
座長:先山 孝則(大阪市立環境科学研究センター)
- 2B2-1 地環研と国環研とのWET手法を用いた水環境調査に関する共同研究
田中 仁志ほか(埼玉県環境科学国際センター)
- 2B2-2 生物応答を用いた排水試験法による水質評価事例と毒性原因の推定
古閑 豊和ほか(福岡県保健環境研究所)
- 2B2-3 LC/MSを用いた短鎖塩素化パラフィンの分析検討
吉識 亮介ほか((公財)ひょうご環境創造協会兵

庫県環境研究センター)

2B2-4 神戸市域におけるゴルフ場農薬調査及び当該検体を用いたLC-QTOF/MSによるスクリーニング分析について

向井 健悟ほか(神戸市環境保健研究所)

2B2-5 キレート樹脂固相抽出法による重金属分析

竹本 光義(広島県立総合技術研究所保健環境センター)

2B2-6 メスフラスコを用いたベンゾ[a]ピレン(水質)の分析法について

堀切 裕子ほか(山口県環境保健センター)

○水環境Ⅳ (13:10-14:10)

座長:大庭 大輔(鹿児島県環境保健センター)

2B3-1 武庫川上流域における山林の面源負荷原単位推定
古賀 佑太郎ほか((公財)ひょうご環境創造協会
兵庫県環境研究センター)

2B3-2 BODの長期化による琵琶湖における易分解性有機物の把握について

尾原 禎幸ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

2B3-3 北浦南部における全りんの高濃度要因

中川 圭太ほか(茨城県霞ヶ浦環境科学センター)

2B3-4 富山湾沿岸部における栄養塩類と内部生産について

藤島 裕典(富山県環境科学センター)

○水環境Ⅴ (14:20-15:20)

座長:田中 仁志(埼玉県環境科学国際センター)

2B4-1 魚へい死事案の原因究明に関する取り組みの紹介
中曾根 佑一(群馬県衛生環境研究所)

2B4-2 硫黄山噴火に伴う川内川の水質について

大庭 大輔ほか(鹿児島県環境保健センター)

2B4-3 旧岩美鉱山坑廃水処理の将来予測に関する研究

前田 晃宏ほか(鳥取県衛生環境研究所)

2B4-4 河川等の白濁事象の原因調査について

浦山 豊弘ほか(岡山県環境保健センター)

5. 閉会

閉会にあたり、環境省及び島根県から閉会の挨拶が、三重県から次期開催県としての挨拶がありました。

○環境省閉会のあいさつ

皆様たいへんお疲れ様でした。環境省の上田でございます。大変すばらしい発表を、素晴らしい議論をお疲れ様でした。

今年度主催の島根県様をはじめ関係の皆様、ご奔走いただき本当にありがとうございました。素晴らしい会議だったと思っております。また、次年度の主催を引き受

けていただきました三重県の皆様、感謝申し上げます。ぜひともよろしく願いいたします。

昨日、今日と多くの素晴らしい話をお聞かせいただき、日本の各地における環境の現状に関して、非常に厚みのある基礎データが蓄積されていると思いましたが、それらに対する深い理解と知見が蓄積されていることを改めて実感しました。本当に敬服いたしております。

そういう意味で、環境の現象に関してしっかり基礎データが理解できているということで、今後の異常気象とか気象変動に関しても、対処していくための基礎というのはしっかりできているのではないかと改めて感じ、少し安心している次第でございます。

昨日の開会式の時にも少し触れました。また、あえて厳しい言い方をさせていただきますが、これから地環研が生き残っていく道は「適応」しかないと思っております。

私どもの適応に関する支援のメニューについてこの場をお借りして三点ほどご紹介させていただきます。

一つは研修の拡充でありまして、所沢の環境研修所の研修で、今年までは地球温暖化研修の中の一コマだけを適応に充てていたという状況でしたけれども、来年は気候変動対策研修と改めたうえで、適応に丸一日充てたいと考えております。この研修は行政間だけでなく地環研の研究者の皆様にも役立つようにカリキュラムを検討中ですので、ぜひ、積極的に参加をご検討いただければと思います。

2つ目は、国環研のサポートであります。適応のもとで国環研は自治体や地域をサポートするという役割を担ってまいりますので、地環研からもご相談いただきたいと思います。

3点目は競争的資金でありまして、私たちの室で持っております環境研究総合推進費、もうたくさんご利用いただいております。今回の発表でも、推進費活用しました、との声をいただき、たいへんありがたかったのですが、その推進費の中で、特に、地域での適応に関する研究について、重点的に採択しております。それは来年度課題もそうで、ただし来年度については11月1日に応募を締め切っておりますけれども、これをその次の年度もできるだけ継続していきたいと思っております。次の年度ですと検討期間が一年間ありますので、是非ご検討いただければと思っております。

こういったものを活用いただきつつ、地環研の成果のさらなる社会還元、地環研のさらなる発展を強く期待申し上げます。私の閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○次期開催県のあいさつ



(三重県保健環境研究所長 松村 義晴)

只今ご紹介いただきました、三重県保健環境研究所の松村と申します。次回開催県ということでひとことご挨拶を申し上げます。

昨日今日と二日間、日ごろの成果を数多く発表していただきました。それに、活発なご審議、ご議論、意見交換をしていただきました発表者の皆様、参加された皆様、大変お疲れ様でした。それから研究発表演題の募集、編集、座長様の選任、発表会に向けた準備、二日間の研究発表会の運営を行っていただきました島根県保健環境科学研究所の柳所長様をはじめ、ここにお見えになる島根県のスタッフの皆様本当にお疲れ様でした。

来年は、東海・近畿・北陸ブロックが担当ということで、三重県で開催させていただく予定にしております。

来年度は平成から新たな年号になって、その元年の開催ということで、非常に名誉なことと思っております。今回の島根県さんの様にきめ細やかな対応ができるかどうかは不安ではありますが、しっかりと対応させていただきたいと思っております。

来年の開催時期、場所は、11月14日(木)、15日(金)の二日間で、三重県津市にあります「三重県総合文化センター」を予定しております。

開催場所の総合文化センターの隣には、5年ほど前にできた三重県の総合博物館がございます。そちらの中で、三重県のことや、伊勢御師あるいは神宮御師という形でお伊勢参りを説明したものがございますので、研究会の合間を縫ってご覧いただきたいと思っております。

それから、三重県は目立たない地味な県ですが、食べ物、見るところもたくさんございます。三大和牛で有名な松阪牛、松阪にはB級グルメで松阪ホルモンもございますのでそういうものもご賞味いただければと思います

し、伊勢神宮や伊勢志摩サミットの会場となった志摩市賢島などもこの機会を通じてご覧になっていただければと思っております。

私ども、これから皆さんをお招きするためにしっかりと準備を進めさせていただきたいと思っておりますので、来年も是非たくさんのご参加をお願いしたいと思っております。

簡単ではございますが、次期開催県としての挨拶に代えさせていただきたいと思っております。来年、三重県の地でお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○開催県閉会のあいさつ

開催県としまして最後に一言ご挨拶を申し上げます。昨日と今日の研究発表会お疲れ様でございました。

私も聴講させていただきましたが、そのほとんどが地域の環境問題に対する取組みのご紹介だったと思っております。

地域の環境問題を解決するためには、いろいろと議論がありましたけれども、地域にはそれぞれの事情があると思っております。その地域の事情に応じて、関係者に対して、一つ一つ、丁寧に合理的な説明をしていくというのが我々に求められていると思っております。

もう一つは、全国的な規模の対応ということの発表もあったと思っております。

昨日、上田室長様と意見交換させていただきましたけれども、その中で、地域というのは地域と地域の自治体がまずは認識を持つこと、そして、国に対して要望ということではなく、まず地域としてどうしていくのかということをしかりと見極めた上で、地域、自治体、国の三者がしっかりと連携して対応していくのが必要ではないかと感じたところです。

昨日の懇親会で、今回初めて島根県にお越しになった方が約3分の1ということでございました。まだまだ時間がございます。山陰には島根県と鳥取県があり、島根には出雲大社、足立美術館などたくさん良いところがございますので、お時間がある限りご覧になっていただきたいと思っております。

最後になりましたが、本研究発表会にあたりましてご指導いただきました、環境省様、全環研様にお礼申し上げますと共に、本日ご参加の皆様のみますのご発展をお祈り申し上げまして私の挨拶といたします。ありがとうございました。